

事業報告書

(令和5年度)

学校法人 智香寺学園

目 次

1. 法人の概要			
(1) 建学の精神	1		
(2) 設置している学校・学部・学科等	1		
(3) 各学校・学部・学科等の入学者数・在籍者数の状況	1		
(4) 役員・教職員概要	2		
① 役員			
② 責任免除・責任限定契約、補償契約・役員賠償責任保険契約の状況			
③ 教員			
④ 職員			
2. 事業の概要			
(1) 令和5年度事業の概要・実施状況	3		
大学部門			
① 自己点検評価報告			
② SDGs（持続可能な開発目標）への新たな取り組み			
③ 研究・寄附金推進活動			
④ 地域・社会への貢献			
⑤ 高大連携計画			
⑥ 国際交流計画			
⑦ 若手研究者の育成			
⑧ 主な施設設備計画の実施状況			
⑨ 就職課・キャリア支援センター 事業状況			
中長期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況	17		
高校部門	18		
■ 概況	■ 生徒募集		
■ 学校行事	■ 進路結果		
3. 財務の概要			
(1) 決算の概要	24		
① 貸借対照表関係	② 資金収支計算関係	③ 事業活動収支計算書関係	
(2) その他	27		
① 有価証券の状況	② 借入金の状況	③ 学校債の状況	④ 寄付金の状況
⑤ 補助金の状況	⑥ 収益事業の状況	⑦ 関連当事者等との取引の状況	
⑧ 学校法人間財務取引			
(3) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策	27		

1. 法人の概要

(1) 建学の精神

- ① 科学の真理を窮め、それを世のために役立てるよう決意することによって、若き日に**使命感**を養え。
- ② 深く科学を学び、豊かな技術を身につけることによって、若き日に正しい**人生観**を養え。
- ③ 学生、教職員及び父兄が一体となり、学園の理想発展をめざすことによって、若き日に**連帯感**を養え。

学校法人智香寺学園埼玉工業大学は、仏教精神を基盤として、広く学術教育を行うことを建学の理念としています。単なる実学教育にとどまらず学生一人ひとりの「こころ」の涵養に力を注いでいます。

(2) 設置している学校・学部・学科等

(令和5年5月1日現在)

学校名	学部・学科・課程名	開設年度	入学定員 募集定員	編入学定員	収容定員 学則定員
埼玉工業大学	大学院工学研究科 (博士前期課程) 機械工学専攻	平成10年4月	6		12
	情報システム専攻	平成19年4月	7		14
	生命環境化学専攻	平成19年4月	7		14
	(博士後期課程) 機械工学専攻	平成12年4月	2		6
	情報システム専攻	平成22年4月	2		6
	生命環境化学専攻	平成22年4月	2		6
	大学院人間社会研究科 (修士課程) 情報社会学専攻	平成18年4月	10		20
	心理学専攻	平成18年4月	15		30
	大学院小計		51		108
	工学部				
	機械工学科	昭和51年4月	120		480
	生命環境化学科	平成19年4月	90		360
	情報システム学科	平成19年4月	150		600
	工学部小計		360		1,440
	人間社会学部				
情報社会学科	平成14年4月	90		360	
心理学科	平成14年4月	50		200	
人間社会学部小計		140		560	
大学合計			551		2,108
正智深谷高等学校 全日制課程 普通科		昭和32年4月	400		1,200
高校合計			400		1,200
法人合計			951		3,308

(3) 各学校・学部・学科等の入学者数・在籍者数の状況

(令和5年5月1日現在)

学校名	学部・学科・課程名	入学定員 募集定員	入学者数	編入学者数	在籍者数
埼玉工業大学	大学院工学研究科 (博士前期課程) 機械工学専攻	6	15		27
	情報システム専攻	7	12		15
	生命環境化学専攻	7	7		14
	(博士後期課程) 機械工学専攻	2	1		6
	情報システム専攻	2	3		12
	生命環境化学専攻	2	1		5
	大学院人間社会研究科 (修士課程) 情報社会学専攻	10	2		4
	心理学専攻	15	4		8
	大学院小計	51	45		91
	工学部				
	機械工学科	120	73	1	452
	生命環境化学科	90	52		278
	情報システム学科	150	219		834
	工学部小計	360	344	1	1,564
	人間社会学部				
情報社会学科	90	104		413	
心理学科	50	40		205	
人間社会学部小計	140	144		618	
大学合計	551	533		2,273	
正智深谷高等学校 全日制課程 普通科	400	352		1,135	
高校合計	400	352		1,135	
法人合計	951	885		3,408	

(4) 役員・教職員概要

① 役員

(令和5年5月1日現在)

理事・監事の 区別	職名又は担当職務	氏名	就任年月日
理事 (常勤)	学長	内山俊一	令和5年4月
理事 (非常勤)	ハラスメント等人権担当	浅野義光	平成27年12月
理事 (非常勤)	ハラスメント等人権担当	宇都宮孝和	平成27年12月
理事 (常勤)	理事長	松川聖業	平成11年5月
理事 (非常勤)	教育研究担当	田中正一	令和4年7月
理事 (常勤)	学校長	亀山典幸	令和5年4月
理事 (非常勤)	教育研究担当	神居文彰	平成19年4月
理事 (非常勤)	財務担当	三輪行雄	平成19年4月
理事 (常勤)	教育・学生担当	小西克享	令和2年4月
理事 (非常勤)	コンプライアンス担当	緒方延泰	平成19年7月
理事 (非常勤)	財務担当	宇高良哲	平成22年7月
監事 (非常勤)		今岡達雄	平成19年7月
監事 (非常勤)		新谷仁海	平成19年7月
監事 (非常勤)		高丹秀篤	平成28年7月

② 責任免除・責任限定契約、補償契約・役員賠償責任保険契約の状況

本学は、役員及び評議員等を被保険者として、私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第118条の3の規定による役員等賠償責任保険に加入しています。保険料は本学が全額負担し、役員等がその職務の執行に起因して保険期間中に損害賠償請求をされた場合の損害賠償金および争訟費用等は本保険により填補されます。

なお、本保険契約は役員等の職務執行の適正性確保のため、職務義務違反以外の要件に起因する損害等については、填補の対象外とされています。

③ 教員 ()内は兼担を示す。

(令和5年5月1日現在)

部門	専任教員	兼務教員	合計
大学院	(60)	3	3(60)
先端科学研究所	2(17)	0	2(17)
工学部	49	100	149
人間社会学部	20	51	71
大学計	71	154	225
正智深谷高校	52	39	91

④ 職員

(令和5年5月1日現在)

部門	専任職員	兼務職員	合計
法人部門	5	0	5
大学部門	59	16	75
高校部門	9	1	10
合計	73	17	90

2. 事業の概要

(1) 令和5年度事業の概要・実施状況

大学部門

令和5年度に行った主な取り組みについて次に報告いたします。

① 自己点検評価報告

4度目の認証期間となる公益財団法人大学基準協会による大学評価（認証評価）について、協会より指摘のあった部分に対して自己点検作業を継続的に実施する。令和5年度は認証時に大学基準協会から指摘を受けた事項に対する改善報告書を提出し、改善に向けた大学全体の取り組みや、改善課題・是正勧告の改善状況を報告した。報告内容等について大学HPで情報公開した。

URL <https://www.sit.ac.jp/information/gaiyou/hyouka/>

② SDGs（持続可能な開発目標）への新たな取り組み

地球環境の変化に対応してエネルギー問題の解決に取り組むべく、蓄電池やバイオマス発電の研究を進めています。学科横断で社会課題に立ち向かう研究を推進し、本学の研究成果を社会実装することを目指しています。

地域特性を活かした脱炭素社会のモデルを構築し、地域おこしと脱炭素社会を同時に実現する“脱炭素ドミノ”を牽引する社会実装研究を加速させるため、「クリーンエネルギー技術開発センター」を新設し、2024年3月にはセンター開設記念式典と記念講演会を実施しました。開設にあたり、2年間の事前調査研究のプロジェクトを立ち上げた。主な研究は以下のとおりです。

【社会実装研究】

◇農業における技術革新

●農業・畜産廃棄物のエネルギー資源化

- ・バイオマス発電、付加価値の高い堆肥化（高栄養価、無臭）

●地元ブランド農作物の利活用

- ・ユリの切花の茎廃棄物を利用した繊維和紙の製作と地域おこし

◇再生エネルギーの高効率利用と電力需給の強靱化

●長寿命と高い安全性を誇る新型蓄電池の社会実装研究

●レドックスフロー電池の高性能化と災害時想定の実証実験

- ・住宅1軒分の非常時における太陽光発電と連動させたレドックスフロー電池

◇革新的なAI搭載技術の社会実装

●後付け自動運転AI技術の研究開発と公道走行試験による実験実証

●全国各地で年間1万km以上の公道走行試験（レベル2）の実績を基にしたレベル4への研究開発を推進

- ・自動運転（小型車、マイクロバス、路線バス、水陸両用バス）による実証実験

- ・電気自動車の自動運転化によるクリーンエネルギーの利用

SDGs への新たな取り組みとして、令和 5 年度は以下のとおり自治体や企業との連携、共同研究を行った。

○自動運転

・深谷市と地域公共交通の自動運転技術の導入、推進に向けた連携協定を締結

6月27日、深谷市における地域公共交通の自動運転技術の導入、推進に向けて、協定各者が相互に連携して自動運転技術の発展と社会実装に取り組むことを目的として連携協定を締結した。

連携先：深谷市、ADrive(株)、アイサンテクノロジー(株) 損害保険ジャパン(株)、KDDI(株)、(株)ティアフォー、深谷観光バス(株)、埼玉工業大学

・東京西新宿エリアで自動運転バスを走行

10月2日～10月13日、本学の自動運転車両(大型バス)と技術を提供し、東京都都市整備局、パシフィックコンサルタンツ(株)、京王バス(株)と連携し、西新宿エリアにおける自動運転バスの運行に協力しました。本学の大型自動運転バスが東京都内の公道を走行するのは初めてです。走行の様子は数多くのマスコミに取り上げられました。

○レドックスフロー電池

・COP28 ジャパン・パビリオンにて、レドックスフロー電池の展示紹介に協力

11月30日からアラブ首長国連邦のドバイで開催された国連気候変動枠組み条約第28回締結国会議(通称COP28)において、本学工学部生命環境化学科の松浦宏昭教授がレドックスフロー電池に関する企業展示の紹介に協力しました。

今回連携協力したプライ

ム・スター社のブースサイトでは、内山俊一学長から産学連携に向けたメッセージの公開や、松浦宏昭教授からはレドックスフロー電池の技術解説および埼玉工業大学で行っている「太陽光発電とレドックスフロー電池を連動させた電力需給システムの実証実験」に関する紹介を行った。



○農作物の利活用

・ユリの切花の茎廃棄物を利用した繊維和紙の製作と地域おこしに協力

本学工学部生命環境化学科の本郷照久教授が、深谷市指定管理施設である深谷グリーンパークと、ユリ切花出荷時に大量発生する茎の再資源化について共同研究を開始しました。本郷照久教授は、環境化学の専門家として、ユリの茎から利用可能

な繊維やセルロース等の資源を取り出す技術をサポートします。

○クリーンエネルギー技術開発センター

- ・クリーンエネルギー技術開発センター開設記念式典・記念講演会を開催

3月22日、本学にて、クリーンエネルギー技術開発センター開設記念式典を開催しました。式典には、小島進 深谷市長、原田信次 美里町長、ふかやeパワー株式会社 高丹秀篤 代表取締役を始め、多くの皆様にご出席いただきました。埼玉工業大学は、当センターの開設を起源として、クリーンエネルギー技術の開発に向けて、バイオマスや蓄電池などの環境分野の研究者が連携し、知的資源を地域の特色と融合し、新たな価値とブランドの創成を目指します。



③ 研究・寄附金推進活動

- ・科学研究費補助金事業

令和4年度の採択件数は7件で、前年度より4件の増となった。

令和5年度 科学研究費獲得者

研究種目	新規 継続	所属	代表者	令和5年度 直接経費	令和5年度 間接経費
基盤研究(C)	新規	機械工学科	福地亜宝郎	1,400,000	420,000
基盤研究(C)	新規	機械工学科	政木 清孝	1,400,000	420,000
基盤研究(C)	新規	生命環境化学科	本郷 照久	1,300,000	390,000
基盤研究(C)	新規	生命環境化学科	松浦 宏昭	2,000,000	600,000
若手研究	新規	情報システム学科	古川 靖	3,200,000	960,000
若手研究	新規	情報システム学科	桑木 道子	600,000	180,000
研究成果公開促進費	新規	機械工学科	長谷 亜蘭	150,000	0
基盤研究(C)	継続	機械工学科	長井 力	1,200,000	360,000
基盤研究(C)	継続	機械工学科	趙 希祿	500,000	150,000
基盤研究(C)	継続	生命環境化学科	木下 基	700,000	210,000
基盤研究(C)	継続	情報システム学科	山崎 隆治	700,000	210,000
計			11件	13,150,000	3,900,000

- ・民間等からの共同研究・受託研究・寄付金の拡大

民間等との連携を通じて優れた研究成果を創出し、得られた研究成果を社会に還元するため、共同研究・受託研究を積極的に推進した。

令和5年度 共同研究

研究種目	所 属	代表者	件数	令和5年度 獲得金額
共同研究	機械工学科	長谷 亜蘭	5	6,480,000
	機械工学科	福地亜宝郎	3	1,450,000
	機械工学科	皆川 佳祐	1	750,000
	生命環境化学科	田中 睦生	4	2,500,000
	生命環境化学科	秦田 勇二	2	1,490,000
	生命環境化学科	松浦 宏昭	1	975,417
	情報システム学科	井上 聡	1	1,100,000
	先端科学研究所	丹羽 修	3	1,500,000
	先端科学研究所	内田 正哉	2	0
情報システム学科	渡部 大志	1	2,500,000	
計			23件	18,745,417

令和5年度 受託研究

研究種目	所 属	代表者	件数	令和5年度 獲得金額
受託研究	機械工学科	長谷 亜蘭	4	2,980,000
	機械工学科	皆川 佳祐	1	1,300,000
	生命環境化学科	秦田 勇二	1	50,000
	情報システム学科	渡部 大志	8	79,792,636
	情報社会学科	本吉 裕之	1	539,000
計			15件	84,661,636

令和5年度 寄付金

研究種目	所 属	代表者	件数	令和5年度 獲得金額
寄付金	機械工学科	趙 希禄	1	2,000,000
	機械工学科	政木 清孝	1	1,500,000
	機械工学科	長谷 亜蘭	2	900,000
	生命環境化学科	本郷 照久	1	100,000
	生命環境化学科	長谷部 靖	1	3,000,000
	生命環境化学科	松浦 宏昭	1	300,000
計			7件	7,800,000

④ 地域・社会への貢献

・産業技術展示会への研究展示

本学から創出された研究成果の社会還元、技術移転を促進すること及び実用化に向けた産学連携等のマッチング支援を実施することを目的として展示会へ出展を行った。

展示会名	実施月
・さいしんビジネスフェア 2023	6月
・第2回坂城経営フォーラム 産学官連携 先端研究シーズ講演会	9月
・西新宿自動運転バス公道走行実証実験	10月
・諏訪圏工業メッセ 2023	10月
・川崎鶴見臨港バス川崎市自動運転実証実験	10月
・メディカルクリエーションふくしま 2023	11月
・埼玉県産業振興公社 第3回産学連携技術シーズ発表会	11月
・ふるさと・ふかや 渋沢学フォーラム	11月
・産業交流展 2023	11月
・第18回 東和新生会ビジネス交流会	11月
・深谷市渋沢栄一新一万円札発行記念 自動運転 BUS 試乗会	1月
・彩の国ビジネスアリーナ 2024	1月
・奈良県明日香村自動運転実証実験	2月
・奈良県三郷町自動運転実証実験	2月

・シーズ発表会

大学・研究機関と研究開発型企業との産学連携の活性化を目的として開催した。

主催：産学連携支援センター埼玉【公益財団法人埼玉県産業振興公社】

発表テーマ	実施月
第1回産学連携シーズ発表会（オンライン配信） 「電気不要の感熱型調光材料・感光型調光材料」木下教授	7月
第2回産学連携シーズ発表会（オンライン配信） 「人間工学を用いたロボット技術と医療工学への応用」長井教授	8月
第3回産学連携シーズ発表会（オンライン配信） 「ゲノム情報等を利用して狙い通りの新品種候補を作る」秋田准教授	11月
第4回産学連携シーズ発表会（対面開催） 「表面修飾材料をはじめとした有機材料の開発」田中睦教授	3月

・地域交流計画の実施状況

大学の教育研究の成果を地元や社会へ還元することを目的として以下の講座等を開講した。

◇市民のための公開講座（対面・オンライン開催）受講者：計 394 名

6月3日 経営社会学講座（本吉准教授） 受講者：対面 36名・オンライン 29名

- 6月3日 国際植物の日特別講座（秋田教授） 受講者：対面 47名・オンライン 23名
 6月10日 お天気と気象の講座（高橋講師） 受講者：対面 49名・オンライン 31名
 6月10日 地元バイオマス活用ヘルスケア講座（長谷部教授）
 受講者：対面 18名・オンライン 27名
 6月17日 AI画像処理講座（望月講師） 受講者：対面 34名・オンライン 48名
 6月24日 航空機耐疲労設計講座（政木教授） 受講者：対面 30名・オンライン 22名

◇心理学セミナー（オンライン開催） 受講者：計 128名

- 7月1日 家族臨床心理学入門（三浦教授） 受講者数：33名
 7月29日 日常の中にあるこころの動き（伊藤准教授） 受講者数：27名
 9月2日 「みる」仕組み（曾我教授） 受講者数：32名
 10月14日 うつ病のはなし（村中講師） 受講者数：36名

◇先端科学研究所協力会講演会（対面・オンライン開催）

協力会員（企業）との共同研究、地域企業へ技術移転の促進及び実用化に向けて研究情報の提供等を行うため講演会を開催した。

- 7月11日 第1回協力会講演会
 テーマ：「Society 5.0を見据えた教育・人材育成についての最新動向」
 講師：桑木講師（情報システム学科）
 受講者数：対面 23名・オンライン 26名
- 9月1日 第2回協力会講演会
 テーマ：「見て楽しい、食べて美味しいアスパラガス
 ～食べるだけでない！アスパラガス研究最前線！～」
 講師：菅野 明 准教授（東北大学 大学院 生命科学研究科）
 受講者数：対面 31名・オンライン 19名
- 3月12日 第3回協力会講演会
 テーマ：「認知症とともにある日々」
 講師：滝澤講師（心理学科）
 受講者数：対面 16名・オンライン 34名

◇「科学と仏教思想」研究センター研究会及び公開セミナー（オンライン開催）

仏教や宗教、科学をめぐる諸問題について議論を行う研究会等を開催した。

- 5月26日 第1回研究会（読書会）『心はこうして創られる--「即興する脳」の心理学』
 7月28日 第2回研究会「仏教の唯識論と深層心理学についての批判的考察」
 9月15日 第3回研究会「普遍道徳と宗教」
 12月1日 第4回研究会「シリア・キリスト教（景教）「思想」-「神学、釈義、教義」ではなく」
 2月22日 第5回研究会「科学と仏教思想」

◇AI 研究センター講演会（対面開催）

AI 研究を推進するため講演会を開催した。

12 月 5 日 第 1 回講演会

テーマ：「AI 革命の本質と社会へのインパクト」

講師：事業創造大学院大学 産官学連携担当副学長／同 事業創造研究科
教授 黒田達也 氏

受講者数：51 名

◇AI 研究センター出展

11 月 1 日～11 月 2 日 「メディカルクリエーションふくしま 2023」への出展

【展示内容】

AI と脳計測信号処理(脳波解析)のコンビネーションである脳波判読(脳死判定)、視覚誘発電位を利用した、脳とコンピュータのインタフェース (BCI: Brain-Computer-Interface) である脳波で電話をかけるシステムと脳波で電動車椅子を動かすシステムの展示を行った。

◇第 20 回 SAIKO フェア（対面開催）（来場者：計 1,079 名）

本学の研究や地域連携活動等を様々な実験・体験教室・展示品を通して広く地域の人や一般市民人に紹介を行う。

- ・マイクロナノ研究室「摩擦の力を体験してみよう」長谷准助教
- ・機能性流体力学研究室「磁石の不思議な世界を体験してみよう」岡田講師
- ・植物ゲノム研究室「魅惑の花の世界」秋田准教授
- ・認知ロボティクス研究室「AI・ロボットとおしゃべりしよう」橋本教授
- ・視覚情報処理研究室「コンピュータビジョンと画像処理」望月講師
- ・技術教育研究室「簡単な木製品をつくろう」小川教授
- ・情報コミュニケーション研究室「CG キャラクターになりきろう」森沢教授
- ・経営企画研究室「地域活性化を考えよう」本吉准教授
- ・臨床心理学研究室「こころを映し出す方法」滝澤講師

◇子ども大学ふかやの開催（深谷市教育委員会等との協働事業）（対面開催）

多様化している現代社会において、共生社会の理解と課題に対応する生きる力を地域で育むとともに、子どもの知的好奇心を刺激する学びの提供を目的とし開校した。

（実行委員：教育研究支援課 笠原貴弘）

* 深谷市内の小学校 4 年生～6 年生、参加者：40 名

* 本学会場他 5 日間（8/5、8/9、8/17、8/26、9/9）

◇ふるさと ふかや・渋沢学フォーラム（深谷市との協働事業）

深谷市で学ぶ子どもたちが、郷土の偉人・渋沢栄一翁の『立志と忠恕』の精神を育み地域社会に愛着をもつとともに、持続可能な地域社会の創り手を育成することを目的に、市内の小中学生、高校生、大学生が参加する形で開催する。

開催日：11月23日

学生スタッフ派遣（司会担当：機械工学科・情報社会学科から各1名）

自動運転技術・環境物質化学研究室（ゆり茎からの和紙を作る技術）の研究展示

◇深谷 渋沢栄一ゆかりの地めぐり自動運転バスの試乗会

渋沢栄一新一万円札発行記念として「渋沢栄一記念館」（深谷市八基）から公道約13キロを走行する実証実験を兼ねた試乗会を実施した。試乗会は本学の他、深谷市と6つの民間企業が連携する「深谷自動運転実装コンソーシアム」が協力した。

試乗会：1月12日

一般の方をはじめ、深谷市の市立八基小学校6年生12人が試乗した。

・地域連携の推進

深谷市をはじめとする近隣の市町村との連携を推進するとともに以下のイベント等に積極的に協力・参加するなど地域交流を通じ大学のアピールを行った。



* ふかや市民大学（生涯学習）へ委員及び講師の派遣

* 深谷市教育委員会へ委員の派遣

* メンタルヘルス相談業務委託（臨床心理センター）の継続

* 市民を対象とした「子育て支援・幼児グループ」を開講（臨床心理センター）

* 日本機械学会主催の「ものづくり体験教室」を児童向けに開催

* 深谷商店街連合会との連携協力

* 深谷市七夕まつりへの出展（11月）

* 深谷市産業祭への出展（7月）

* ふるさと ふかや 渋沢学 専門委員会へ委員の派遣

* DEEP VALLEY Agritech Award2023 審査員の派遣

* 子ども大学よりいとの連携

* 美里町との包括連携協定

* 本庄総合市民大学への講師派遣

* 子ども大学ほんじょうとの連携

○長野県坂城町（坂城町・財団法人さかきテクノセンター・坂城高校）との連携

* 埼玉工業大学坂城町講座「おもしろ理科実験」

* さかきテクノセンター坂城経営フォーラム講師派遣

* 「さかきふれあい大学」市民講座へ講師派遣

- * 「さかきふれあい大学」 埼玉工業大学坂城町講座「お出かけ編」
- * 坂城高校文化祭（葛尾祭）へ研究展示
- * 坂城高校大学見学会
- * 坂城町との連携協定に基づく連携会議
- * 坂城高校を発展させる会

⑤ 高大連携計画

・高等学校との教育連携について

相互の教育交流を通じ高校生の視野を広げ、進路に対する意識及び学習意欲を高めるとともに大学・高校の求める学生像・生徒像及び教育内容への理解を深め、かつ、大学教育、高校教育の活性化を図るために教育協定を推進する。

協定校：令和5年3月現在 合計 39校

[内訳] 高校 37校・専門学校 1校・日本語学校 1校

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 智香寺学園正智深谷高等学校 | 21. 埼玉県立皆野高等学校 |
| 2. 埼玉県立久喜工業高等学校 | 22. 群馬県立吉井高等学校 |
| 3. 埼玉県立深谷商業高等学校 | 23. 埼玉県立川越工業高等学校 |
| 4. 埼玉県立熊谷工業高等学校 | 24. 埼玉県立大宮工業高等学校 |
| 5. 埼玉県立児玉白楊高等学校 | 25. 平方学園明和県央高等学校 |
| 6. 埼玉県立寄居城北高等学校 | 26. 埼玉県立川口工業高等学校 |
| 7. 埼玉県立深谷高等学校 | 27. 埼玉県立浦和工業高等学校 |
| 8. 埼玉県立深谷第一高等学校 | 28. 埼玉国際学園（日本語学校） |
| 9. 群馬県立伊勢崎工業高等学校 | 29. 埼玉県立羽生第一高等学校 |
| 10. 群馬県立前橋工業高等学校 | 30. 大妻学園大妻嵐山高等学校 |
| 11. 長野県坂城高等学校 | 31. 埼玉県立滑川総合高等学校 |
| 12. 山梨県甲府市立甲府商科専門学校 | 32. 埼玉県立狭山工業高等学校 |
| 13. 埼玉県立秩父農工科学高等学校 | 33. 栃木県立宇都宮工業高等学校 |
| 14. 埼玉県立妻沼高等学校 | 34. 埼玉県立新座総合技術高等学校 |
| 15. 群馬県立高崎工業高等学校 | 35. 桐生市立商業高等学校 |
| 16. 群馬県立藤岡工業高等学校 | 36. 埼玉県立熊谷西高等学校 |
| 17. 群馬県立藤岡中央高等学校 | 37. クラーク記念国際高等学校 |
| 18. 日々輝学園高等学校 | 38. 長野県上田東高等学校 |
| 19. 埼玉県立進修館高等学校 | 39. 清和学園高等学校 |
| 20. 群馬県立太田工業高等学校 | |

◇高大連携事業（令和5年度実績）

- ・協定校大学見学会（体験授業等）実施（21校）
来校者数（高校生）：計 598名
- ・工業高校学習成果研究発表会における指導講評の依頼（2校）

- ・インターンシップ事業（協定校からの生徒受入れ）（2校）
- ・SSH 講座への講師派遣（1校）
- ・協定校文化祭オブジェ制作協力（1校）
- ・付属高校交換留学生のための見学会

⑥ 国際交流計画

◇日本、アジア青少年サイエンス交流事業「さくらサイエンスプロジェクト」（主催：JST）
令和5年度は、応募中止により申請を見送り

◇正智深谷高等学校 留学生 大学見学会

2023年9月にオーストラリア・クイーンズランド州から正智深谷高校に来日した留学生3名が本学を訪問し、施設見学や研究室訪問などを行った。

◇第3回ダナン大学・埼玉工業大学国際シンポジウム（主催：国際交流研究センター）

昨年に引続き国際交流研究活動を推進すべく、海外協定校であるベトナムダナン大学と環境分野をテーマとしたオンラインシンポジウムを以下のとおり開催した。

開催日時：2024年3月21日（日本時間11:00~13:00, ベトナム時間9:00~11:00）

参加者：ダナン大学および埼玉工業大学の学生，教職員

ベトナム	日本	Contents
9:00	11:00	開会、挨拶（丹羽先端研所長（経緯等の説明））
9:05	11:05	研究紹介1（埼玉工業大学 情報社会学科 田中克明） 「Topics on Applying Retrieval-Augmented Generation to Chatbots」
9:25	11:25	研究紹介2（ダナン大学, Dr. Quynh Anh Thi Nguyen） 「Comprehensive First-Principles Analysis of Anomalous Hall Conductivity in Full Heusler Alloys: A Large-Data Approach」
9:45	11:45	研究紹介3（埼玉工業大学 生命環境化学科 岩崎政和） 「Study on the synthesis of substituted cyclobutenones by carbonylation of propargyl halides」
10:05	12:05	休憩
10:15	12:15	研究紹介4（ダナン大学 Dr. Nguyen Van Quang） 「Photocatalytic materials for self-cleaning applications in construction materials」
10:35	12:35	交流活動活性化に向けたフリーディスカッション ・さくらサイエンスの紹介（埼玉工業大学） ・The 4th International Conference on Transportation Infrastructure and Sustainable Development の報告（ダナン大学）
10:55	12:55	挨拶（Dr. Phan Hoang Nam（ダナン大学））
11:00	13:00	閉会

⑦ 若手研究者の育成

◇第 21 回若手研究フォーラム（対面開催）

若手研究者の育成を目的としてフォーラムを開催した。

主 催：先端科学研究所

共 催：埼玉工業大学大学院・先端科学研究所協力会

開催日：令和 5 年 8 月 8 日

内 容：

【基 調 講 演：2 件】

- ・「柔らかい生物・生体型ロボット開発による SDGs への挑戦」

中村太郎教授

（中央大学理工学部・株式会社ソラリス[中央大学発ベンチャー企業]創業者/顧問）

- ・「SDGs 達成を目指した環境調和型材料開発」

橘熊野准教授

（群馬大学大学院理工学府分子科学部門・食健康科学教育研究センター）

【特 別 講 演：5 件】

- ・「分野横断研究のススメ」 政木清孝教授（機械工学科）

- ・「ロボットとタスクプランニング」 中村晃教授（情報システム学科）

- ・「深層学習の基礎と応用」 神田直大講師（情報システム学科）

- ・「オンライン動画カウンセリングにおけるクライアント体験に関する研究」

田中崇恵講師（心理学科）

- ・「風景構成法における＜動物＞イメージ 一猫を中心に」

高木絢子助教（臨床心理センター）

一 般 講 演：口頭発表 52 件，ポスター発表 32 件 合計 84 件

参 加 者 数：来場者 123 名（発表者・座長含む）

⑧ 主な施設設備計画の実施状況

【大学】

30 号館空調更新工事（3 年計画／3 年目）総額	110,880 千円
36 号館エレベーター改修工事	52,426 千円
29 号館 3 階空調工事	13,200 千円
27 号館屋根修繕工事	11,825 千円
クラブハウス外壁修繕工事	9,955 千円
1 号館 3 階空調工事	6,820 千円
その他落雷被害による修繕工事	26,165 千円

合計 7 件

◆建物取り壊しに係わる調査

9、10、12 号館耐震診断調査

19,800 千円

⑨ 就職課・キャリア支援センター 事業状況

【就職課】

学生就職支援講座・ガイダンス

- (1) 公務員対策講座は、8月～3月（夏期休暇・冬期休暇）に「公務員・就職筆記試験対策講座」を対面とWebのハイブリット講義にて開講した。3月には、受講者を対象に全国公開模擬試験（地方上級・大卒公安型）を実施した。
12月に1～3年生を対象に「公務員（市役所・自衛隊・警察）・職種理解講座」を実施した。
- (2) 1年生は、3年後の就職活動を見据え、進路希望登録（SAIKOナビ）の登録を実施した。2年生は、就職ガイダンス、インターンシップガイダンス、Uターンを考える講座等を実施した。3年生は、4月より対面で就職ガイダンスのほか、様々な就職活動準備講座を実施した。（(3)以下参照）
- (3) 具体的には、自己分析講座、エントリーシート作成講座、業界研究講座、ビジネスマナー&面接基礎講座、合同企業説明会の参加の仕方講座など、多岐に渡る講座を実施した。さらに少人数制講座として、「自己PR作成講座」「志望動機作成講座」「1day 対面集団面接対策研修」、「Web 集団面接講座」をそれぞれ複数回実施。また、履歴書用写真撮影を11・12月（年内）に実施し、早期化している就職活動に備えた。
- (4) 筆記試験対策としては、e-ラーニング（SAIKOドリル）形式、講師から解説を受ける講座（「SPI集中講座（基礎編）（応用編）」）の2つを準備し、学生が好きな方を選択して学習できる環境を準備した。
- (5) 6月に企業8社を集め「業界研究講座」を実施した。
- (6) 6月に留学生ガイダンスを実施した。日本での就職活動や就労ビザについて、説明した。
- (7) 2月に地方就職を希望する学生を対象に「UIJ ターン相談会」を実施した。
(参加県：栃木県・茨城県・千葉県・長野県・新潟県・福島県)

合同就職説明会及び個別就職説明会

- (1) 2024年3月卒の未内定者を対象に、前年度4月～9月まで、学内個別説明会を実施し、延べ111社実施、延べ270人の学生が参加した。
- (2) 2024年3月卒の未内定者を対象に、2024年2月、学内合同企業研究セミナーを対面で実施した。参加企業数は147社、参加学生は延べ2329名。

保護者向け就職ガイダンス

- (1) 2025年3月卒の学生（学部3年・M1）の保護者を対象に、7月1日（土）に対面にてガイダンスを実施。希望者には後日オンデマンドで当日の内容を配信。

個別面談

- (1) 2023 年度も週 5 日キャリアカウンセラーによる個別面談が受けられる体制を整えた。(カウンセラー4人で週5日を担当)学生の利便性を考え、WEBか対面かの選択が可能となっている。
- (2) 3年生の個別面談を2023年6月から開始し、インターンシップ参加希望や早い時期から就職活動準備の希望している学生へ相談に対応。

情報交換会及び加盟団体

- (1) 秋以降、各自治体や団体(例:群馬県や栃木県、長野県など)が主催する情報交換会に参加し、大学紹介及び求人獲得などを行ってきた。また、関東地区大学理工系就職研究会の紹介で情報通信業界の企業団体との情報交換を行った。
- (2) 関東地区大学理工系就職研究会(加盟団体)では、年間5回の研究会を開催し、各大学の取り組みや就職に関する情報交換を行った。2023年8月3日には工場見学会を実施し、設備工事業の技術研究所を見学した。2024年1月23日の研究会では、就職・キャリアに関する生成AI活用についての研修会があり、就職活動でAIをどう活用するか等、学生指導の参考になった。
- (3) 埼玉県大学就職問題協議会(加盟団体)で2023年8月10日に16大学合同主催のオンライン合同企業説明会も実施した。

その他

発達障がいやグレーゾーンの学生からの就職に関する相談に対し、専門的立場・有識者から職員や学生に助言していただくために、7月～毎月1回、就労移行支援事業所のスタッフの方に来校いただいた。次年度も継続予定。(8人の学生と面談いただき、卒業後3人が就労移行支援センター利用)

【キャリア支援センター】

講義

キャリア支援科目の講義を前期に8コマ、後期に1コマ実施した。

- (1) 履修者数
3年生向け科目419名、2年生向け科目を34名、1年生向け科目を311名
- (2) 講義概要
グループディスカッション、エントリーシート の書き方、短時間での文章執筆方法、論理的思考の基礎修得等、就職支援を目的とする講義を実施。

海外研修引率

アジアの新興国各地で、現地の学生とのチームワーク研修を実施した。

- (1) ベトナム(ダナン)
 - ・本学からの参加学生数:18名
 - ・実施日程:
事前研修 7月23日 / 海外研修 8月9日～18日 / 事後研修 9月16日

(2) インド (グルガオン)

・本学からの参加学生数：22名

・実施日程：

事前研修 8月6日 / 海外研修 8月23日～9月1日 / 事後研修 9月17日

(3) スリランカ (コロンボ)

・本学からの参加学生数：15名

・実施日程：

事前研修 2月10日 / 海外研修 2月28日～3月9日 / 事後研修 3月24日

資格取得講座の実施

株式会社 SHINKO から講師を招聘し、オンラインで IT パスポート講座を実施した。

・日程：8月7日(月)～10日(木)、14日(月)～18日(金)の9日間

・参加学生数：26名

(1年19名、2年5名、3年2名/機械3名、情シ15名、生命4名、情社3名、心理1名)

有名企業 400 社入社に向けた就職指導

大学通信、週刊東洋経済、週刊ダイヤモンド各誌、各 Web サイトに公表される、有名企業 400 社実就職率ランキングで上位 100 大学に食い込めるよう、学生の集団指導、個別指導、年末面接特訓会を実施した。その結果、内定を獲得できた企業、内定者数は以下のとおり。

(1) 内定企業

日産自動車、スズキ、キヤノン、シャープ、セイコーエプソン、IHI、富士電機、日立造船、荏原製作所、東京電力ホールディングス、山崎製パン、資生堂、京セラ、アイシン、ニデック、太陽誘電、沖電気工業、三井化学、ブリヂストン、JR 東日本、JR 西日本、東急電鉄、セコム、近畿日本鉄道、西濃運輸、総合警備保障、損害保険ジャパン、三井住友海上火災保険、ゆうちょ銀行、富士ソフト、シーエーシー、トランスコスモス、キヤノンシステムアンドサポート

(2) 合計内定者数

59名 (過去最多を更新)

就職企業の開拓、関係深化

有名企業 400 社で内定をいただいた企業への御礼訪問を実施。この他、キャリア支援センター主催の資格取得講座で講師を務めていただく企業等も訪問し、次年度の施策に向けた打合せを実施した。

(1) 有名企業 400 社

アルプスアルパイン、キヤノン、キヤノンシステムアンドサポート、シャープ、スズキ、セコム、トランスコスモス、ニデック、マルハニチロ、三井住友海上火災保険、京セラ、太平洋セメント、太陽誘電、富士ソフト、富士電機、損害

保険ジャパン、日立造船、東京電力、東急電鉄、東日本旅客鉄道、沖電気工業、王子製紙、荏原製作所、西日本旅客鉄道、西濃運輸、資生堂、近畿日本鉄道、IHI

(2) その他、資格取得講座・インターンシップ等の提供企業

SHINKO、クロノス・インターナショナル、セントランス、大和記念育英財団
山陽パッケージシステム、日本ユースリーダー協会

大手企業に就職した卒業生の現状把握

就職企業の開拓、関係深化に伴う企業に訪問に合わせ、静岡、大阪、広島で実費会費制の会食を実施し、近況を伝え合うと共に、近隣に勤務する卒業生同士が連絡先を交換できるようにした。

就職支援策の学外広報

大学ホームページ、雑誌への寄稿、キャリア支援センター公式 Instagram への投稿などを通して、本学の学外広報を実施した。

(1) 大学ホームページ

(2) 雑誌への寄稿

『職業研究』（一般社団法人雇用問題研究所、2024年1月10日、No.1）

https://www.koyoerc.or.jp/occupational_research.html

(3) キャリア支援センター公式 Instagram

<https://www.instagram.com/saikocareer/>

その他

キャリア支援センター規定改定に伴い、2024年2月19日に、キャリア支援センター運営委員会を実施した。

中長期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況

埼玉工業大学は、建学の精神と教育の理念に基づく教育研究活動を永続的に発展させるため、新たに将来計画に関わる中長期ビジョンを掲げ、来る令和9（2027）年を見据えたビジョンを策定し、2021年度に「将来計画 SAIKO中長期ビジョン2021-2027」の冊子が完成した。（ホームページでも公開中）中長期ビジョン実現のため、目標の一つとしている入学定員の確保では、少子化の影響を受け、定員割れの大学が続出している中、幸いにも定員を確保できたが、決して満足いく人数ではなかった。入学戦略の見直しを始め、長期ビジョン達成の戦略として掲げた7項目（入学戦略、教育改革戦略、学生支援戦略、キャリア・就職支援戦略、地域連携戦略、研究活動活性化戦略、管理運営体制強化戦略）について、戦略方法を再検討し、その具体的な取組みの実現を目指したいとした。

高校部門

■概況

令和元年末から始まった新型コロナウイルスの感染拡大は、今年度も一進一退を繰り返す状況となりました。複数回のワクチン接種を済ませた生徒が増えていくにしたがって、感染者数の減少傾向が続きました。とはいえ、ひとたびクラス内に感染者が出ると、感染が複数名に広がるケースもあり、年間を通じて予断を許さない状況が続きました。特にクラブ内での感染拡大については散発的に報告され、その都度、一時的に活動を停止する流れが定着していきました。出席停止となっている生徒に対する授業のライブ配信も継続しながら、学習の継続を最優先にした学校としての対応が定着してきました。感染者の増減によって、登校する／止めるといった対応を臨機応変に行い、各クラスともおおむね問題なく対応ができていました。

その反面、感染症に対する受け止めが人によって異なるために、出席停止について感染者・濃厚接触者は当然としながら、感染不安や少しの体調不良から、登校を控える生徒が以前よりは増えている現状があったかと思います。令和5年5月8日から季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移行となりました。今後、法律に基づいた外出自粛の要請などはなくなり、感染対策は個人の判断に委ねられるほか、幅広い医療機関での患者の受け入れを目指すなど、3年余り続く国のコロナ対策は大きな節目を迎えました。国の方針転換に合わせて柔軟に対応してきました。

授業以外の学校行事については、一部制限された状況だったとはいえ、おおむね通常通りに実施することができました。入学式や卒業式といった式典はもちろん、文化祭や体育祭などのイベントなど感染拡大に注意しながらも、来校者を迎えた上で実施できたことは生徒たちの思い出に残るものとなったと考えます。また、高校時代最大の思い出である修学旅行（研修旅行）については、方面を国内コースに制限しながらも実施できたことは記憶に残る最高の思い出になったことと思います。修学旅行中、現地での大きなトラブルに関する報告はなく、所期の目標に近づくことができことは、学年集団の大きな収穫であったと思います。また、一方で季節性インフルエンザの感染者も生じたことから、修学旅行の実施時期について検討する必要があるかもしれません。5類への引き下げとなり、感染対策が大きく変化しています。学校現場においても、各自が感染対策の意識を高く持ちながら、また、十分に気をつけながら学校生活を送っていくことが不可欠だと考えています。

■生徒募集

令和6年度からの実施を目指している教育改革に向けて、方向性を検討する時期が長引いたために、例年よりも情報提供の動き出しが遅くなってしまいました。また、令和4年度の反省を活かして、紙ベースの資料を復活させ、多くの方に本校のシステムを周知し、他校との差別化を図っていく戦略に転換しました。今年度についてはその効果をより具体的に見ることができませんでした。イベントの申込やHPの流入は好調でしたが、目標とする受験生の増加を果たすことができず、結果的に新入学生が324名と昨年引き続き募集定員を割り込む結果となってしまいました。この結果を真摯に受け止め、次

年度に向けて巻き返しを図っていきたいと思います。

○令和6年度入学者数

系統	コース	男子	女子	入学者数	募集定員
特別進学系	S	4	13	17	30
	H	13	24	37	90
総合進学系	I	70	89	159	120
	P	84	27	111	120
合計		171	153	324	360

○令和6年度入学試験結果

受験形態	受験者数			合格者数			手続者数		
	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計
単願	145	119	264	145	117	262	144	117	261
併願	396	508	904	391	505	896	27	36	63
合計	541	627	1,168	536	622	1,158	171	153	324

■学校行事

○キックオフセミナー

これまでの内容を踏襲しつつ、昨年と同様のスケジュールで実施しました。高校生活のスタートにあたり、各クラスの親睦を深めると同時に、本校での学びのベースとなる内容を盛り込み、感染対策を徹底した中で、有意義な時間を過ごすことができました。

○増上寺研修（3年）

新型コロナウイルス感染拡大により、今年度も実施を見送りました。

○公開授業・クラス懇談会

4月下旬の午前中2時間の授業を公開授業とし、終了後にクラス懇談会を予定していましたが、諸般事情により6月8日に行いました。平日にも係わらず当日は500名を超える多くの保護者の方にご来校いただきました。年度初めの公開授業ということもあり、1年生の保護者の方が多い印象でした。2年生は修学旅行や学校生活、3年生は進路選択と大学受験など、学年によって心配な点は異なりますが、担任と保護者との信頼関係構築の一助となったことと思います。3年生の保護者向けには、進路ガイダンスも行われ、学校の様子を知るよい機会になったことと思います。

○松川杯スポーツ大会

クラスの親睦を深めることを目的として、バスケットボールとドッジボールの 2 種目で行われました。この日に合わせて作ったクラスTシャツを身にまとい、各クラスのリーダーが中心となってチームをまとめました。新型コロナウイルス感染対策として、時間と会場を分散しての実施となりましたが大いに盛り上がった行事となりました。

○ミュージカル鑑賞（3年）・芸術鑑賞会（1・2年）

7月12日に、ミュージカル鑑賞と芸術鑑賞会を実施しました。3年生にとっては、劇団四季公園「美女と野獣」を鑑賞しとても貴重な機会となりました。また、1・2年生の芸術鑑賞会は「アフリカンミュージック」を鑑賞しました。外国の伝統芸能に触れ、その奥深さと面白さを味わうことができました。本校生徒も参加し、会場は大いに盛り上がりました。

○文化祭（葵祭）

新型コロナウイルス感染が 5 類に移行しましたが、感染防止を図りながら昨年と同様に 9 月に、対面での文化祭を行いました。今年のテーマは「**「Beyond the sky」**創造×想像」。1年生にとっては初めての文化祭ということもあり、慣れない部分も多々ありながら、各クラス共に大いに盛り上がっていました。一般公開も限定的に実施しましたが、多くの保護者の方に活動の様子を見ていただくことができました。3年生にとっては最後の文化祭となりましたが、高校時代の思い出の 1 ページとなりました。

○体育祭

仙元山グラウンドに全校生徒が集まっての体育祭は昨年同様の開催となりました。体育祭の開催は、準備の段階から不慣れな状況で、教員も手探りの中で本番の日を迎えました。見事に晴れ上がった快晴の空の下で校長先生の挨拶から体育祭は始まりました。学年・クラスの枠を飛び越え、赤・白・緑の三色に分かれての勝負が行われました。徒競走や障害物競走などの個人種目から各種リレーや綱引き・大玉転がしなどチーム競技まで、大いに盛り上がりました。

○土曜講座

英語・国語・数学の基礎的な講習をベースに、探究型科目やオンライン英会話などを並行して開講しました。講座の出席については、希望者に限定して実施した結果、高い出席率を維持することができたようです。今後、土曜講座の在り方については議論を重ね、より多くの生徒が興味を持つような内容の検討が必要だと感じています。

○令和 5 年度全国高等学校総合体育大会（北海道インターハイ）

北海道を中心とした複数会場で開催された今年度のインターハイには、男子バスケットボール部、男子バレーボール部、女子卓球部の 3 クラブが出場しました。昨年は、男子バスケットボール部では試合当日の朝に発熱者が確認され、泣く泣く出場を辞退

することとなり、男子バレーボール部においては、大会出場に向けて深谷を出発する前日に発熱者が確認され、こちらは無念の出場辞退を余儀なくされてしまいましたが、本年度は現地に赴き、昨年の分まで力を発揮することができたとおもいます。昨年の経験が活かされた形となりました。

○宗教行事（精霊会・法然忌・成道会）

新型コロナウイルス感染対策のために、全校生徒が体育館に一同に会することを避け、全校放送により各教室で写経を行いました。儀式としては実施できなかったため短い時間となりましたが、日常生活を離れて心を落ち着ける貴重な時間となりました。

○企業訪問プログラム（1年生）

本年度は、1年生がプログラムに参加しました。多くの企業の賛同により、実際に企業を訪問して担当者の方から話を聞くことができました。実際に職場を見学し、働く上での苦労話などを聞くことで、自分自身の職業選択について考えるとてもよい機会となりました。

○修学旅行【研修旅行】（2年生）

学年・クラスを取り払い、海外・国内コースからの選択制として始まった研修旅行。一時期コロナ禍により、全てのコースを中止としてきましたが、今年は昨年同様の開催となりました。残念ながら海外コースの実施は見送りとなりましたが、①北海道、②四国／関西、③山陰／北九州、④屋久島／種子島、⑤石垣島の国内5コースからの選択制で実施しました。各コース「SDGs」と「ふれあい」を研修内容に盛り込み、5泊6日の行程での修学旅行となりました。個人旅行では決して体験できない内容ばかりで、参加した生徒たちからは自分のコースを自慢する声がたくさん聞かれました。ほぼ全員の生徒が旅行に参加しました。随所で生き生きと活動する生徒の姿を見ることができて非常に充実した行事となりました。

○深谷アンバサダープロジェクト（1年生）

深谷アンバサダープロジェクトでは深谷の魅力を伝えるCM動画(30秒～1分)の制作を行いました。各クラスの代表10班が体育館で発表を行いました。どの作品も生徒たちが構成を考え、取材撮影を行い、ナレーションや文字を加えるといった工夫が見られました。外部よりお招きした審査員からも高い評価を得ることができ、この活動を通して生徒の成長を感じることができました。

○実用英語技能検定

今年度の英語検定の合格実績は以下のとおりとなりました。準会場受験も定着し、英語科の先生方の協力により年々合格者数の増加が続いています。英語科の多くの先生方の協力により、放課後の対策講習や二次試験面接対策などが行われ、上位級の合格者も増える傾向が続いています。今後もさらに取り組みを強化し、合格者数の増加

に取り組んでいきたいと思いをします。

英語検定合格者数： 2級 34名 / 準2級 115名

■進路結果

令和5年度卒業生の進路結果は以下のとおりとなりました。

各大学においては志願者数の二極化傾向が続き、都内人気大学の倍率は例年以上に上がる結果になりました。共通テストで求められる読解力は英語の語数増加だけに留まらず、他教科においてもかなりの文章量となり、圧倒的な読解力が求められる出題傾向がより鮮明になりました。その結果、共通テスト型入試で **GMARCH** レベルに合格することがさらに厳しくなりました。また、本校から国公立大学を志望する生徒数は、科目数の負担や受験期間の長さから躊躇する傾向が強くなり、結果として近年では最小の国公立大学合格者数となりました。今後、本校独自の進路路線をどのように打ち出していくのか、今後の方向性をどのように示していくかが大きな課題となってきます。

また、大学進学者数に対して、専門学校進学者数はここ数年で最多となりました。看護医療系を中心に、資格取得が安定的な就職につながることから、今後も同様の傾向が続くことが予想されます。この点においても他校との差別化を図る上では強化できるポイントだと認識しています。今後、さらに系統立てた指導体制の構築を目指していきます。

○卒業生進路状況

	R1	R2	R3	R4	R5
卒業生数	456	422	316	387	483
四年制大学	74.6%	78.4%	81.6%	78.3%	78.6%
短期大学	3.5%	1.4%	0.9%	1.0%	1.7%
専門学校	15.4%	13.3%	13.3%	16.8%	15.3%
就職	3.3%	2.4%	2.5%	2.1%	2.0%
進学準備	3.3%	4.5%	1.6%	1.8%	2.5%

○4年制大学

	R1	R2	R3	R4	R5
国公立大学	26	26	17	15	20
私立大学	514	515	328	436	483
合計	540	541	345	451	503

○国公立大学合格者 20名 ※（ ）内は既卒生

神戸	1	信州	1	高知	1	群馬県立女子	4
東京学芸	1	秋田	1	東京都立	2	福井県立	1
群馬	3	徳島	1	埼玉県立	1		
宇都宮	1	愛媛	1	高崎経済	(1)		

○私立大学合格者 483 (8) 名 ※ () 内は既卒生

埼玉工業	19	早稲田	3	上智	2	東京理科大	1
明治	3	青山学院	8	立教	4	中央	6
法政	8	学習院	5(1)	成蹊	5	成城	1
明治学院	3	國學院	8	武蔵	2	独協	5
芝浦工	4	日本女子	2	東京女子	3	日本	9
東洋	46(2)	駒澤	15(2)	専修	3	文教	7
順天堂	3	東京農業	3	その他私大 305(3)			

3. 財務の概要

(1) 決算の概要

2023（令和5）年度の資金収支の規模は7,614百万円となりました。収入面においては前年度比で学生数の減少ため学生生徒納付金収入が減少した。しかし、補助金収入において私立学校施設整備費補助金を3件採択されたことや、自動運転関連をはじめ本学の研究関連の受託研究・共同研究関連の契約が増えたため付随事業収入が増加した。2022（令和4）年度には土地の売却があったため、資産売却収入が減少した。

支出面では、前年度の退職者が多かったため人件費が減少した。また、新規の施設整備が一段落したため施設関係支出、設備関係支出が大きく減少した。

以上の収支の結果、翌年度繰越支払資金については、収入も減少したがそれ以上の支出の減少により、対前年比で125百万円の増加となり、将来に向けた一定の備えを確保することができた。

①貸借対照表関係

今年度の資産負債の状況は、総資産で126百万円の減少、総負債は197百万円の減少となり、純資産で71百万円の増加となった。

固定資産は、有形固定資産で投資額333百万円(現物寄付を含む)に対し、減価償却・除却等で621百万円の実績で288百万円の減少となり特定資産、その他の固定資産の増減と併せて、固定資産合計では15,280百万円の残高となる。流動資産は3,167百万円から3,323百万円に増加、現金預金が増加したことが要因となっている。

負債勘定は、固定負債では長期借入金が142百万円減少し、また、退職給与引当金も26百万円減少したことにより全体として159百万円減少した。流動負債も合計で37百万円減少し1,229百万円となり、負債合計は前年度より196百万円減少の2,443百万円となった。

基本金の第1号基本金は、学園全体で対前年度比251百万円増加し、繰越収支差額は180百万円支出超過が増加し、10,311百万円となり翌年度へ繰り越すこととなった。

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

科 目	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
固 定 資 産	16,024,425,609	15,687,048,856	15,963,298,659	15,562,623,357	15,280,480,461
流 動 資 産	2,509,014,700	2,842,204,373	3,117,484,274	3,167,563,290	3,323,754,053
資 産 の 部 合 計	18,533,440,309	18,529,253,229	19,080,782,933	18,730,186,647	18,604,234,514
固 定 負 債	1,194,409,116	1,142,246,551	1,538,989,207	1,373,433,522	1,213,985,345
流 動 負 債	1,284,492,015	1,205,928,334	1,331,326,431	1,266,882,325	1,229,464,943
負 債 の 部 合 計	2,478,901,131	2,348,174,885	2,870,315,638	2,640,315,847	2,443,450,288
基 本 金	25,942,732,462	25,859,207,686	26,328,522,715	26,220,929,082	26,472,065,792
繰 越 収 支 差 額	-9,888,193,284	-9,678,129,342	-10,118,055,420	-10,131,058,282	-10,311,281,566
純 資 産 の 部 合 計	16,054,539,178	16,181,078,344	16,210,467,295	16,089,870,800	16,160,784,226
負 債 及 び 純 資 産 の 部 合 計	18,533,440,309	18,529,253,229	19,080,782,933	18,730,186,647	18,604,234,514

イ) 財務比率の経年比較

		令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
固 定 資 産 構 成 比 率	固定資産/総資産	86.5%	84.7%	83.7%	83.1%	82.1%
流 動 資 産 構 成 比 率	流動資産/総資産	13.5%	15.3%	16.3%	16.9%	17.9%
総 負 債 比 率	総負債/総資産	13.4%	12.7%	15.0%	14.1%	13.1%
前 受 金 保 有 率	現金預金/前受金	294.0%	359.7%	366.7%	459.3%	439.6%
基 本 金 比 率	基本金/基本金要組入額	98.2%	98.7%	98.8%	99.1%	99.2%
減 価 償 却 比 率	減価償却累計額（図書を除く） /減価償却資産取得価額（図書を除く）	52.0%	53.2%	52.7%	53.8%	55.4%

②資金収支計算関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

収入の部	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
学生生徒納付金	3,551,969,820	3,635,715,280	3,638,694,620	3,664,094,460	3,367,041,760
手数料収入	104,958,131	86,888,423	81,208,219	73,848,165	65,644,478
寄付金収入	32,834,000	72,938,354	19,983,000	49,364,929	41,944,615
補助金収入	664,755,300	790,632,020	1,083,291,426	849,304,508	914,036,419
資産売却収入	0	4,748,550	780	68,220,000	0
付随事業・収益事業収入	29,815,158	38,983,985	30,160,893	66,547,193	108,465,798
受取利息・配当金収入	1,351,663	1,255,682	1,151,374	1,041,046	1,600,967
雑収入	173,174,185	79,463,452	98,223,729	198,034,345	193,909,854
借入金収入	0	0	600,000,000	0	0
前受金収入	772,932,500	743,685,000	714,185,000	633,085,000	689,980,000
その他の収入	162,089,291	194,889,259	324,184,343	783,402,515	183,907,111
資金収入調整勘定	-1,026,643,509	-871,689,713	-1,117,322,035	-898,092,111	-859,632,143
前年度繰越支払資金	2,211,992,812	2,272,592,413	2,674,867,839	2,619,009,514	2,907,757,392
収入の部合計	6,679,229,351	7,050,102,705	8,148,629,188	8,107,859,564	7,614,656,251

支出の部	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
人件費支出	2,522,597,445	2,373,460,417	2,449,094,772	2,546,376,206	2,418,436,491
教育研究経費支出	1,081,405,395	1,257,884,513	1,163,431,636	1,403,305,875	1,242,466,055
管理経費支出	398,978,896	347,825,351	424,905,155	343,783,148	368,414,495
借入金等利息支出	4,456,383	3,534,268	4,861,889	3,962,124	3,028,946
借入金等返済支出	157,600,000	120,000,000	140,426,000	148,792,000	132,656,000
施設関係支出	125,519,440	119,731,071	1,026,994,798	258,051,310	176,646,617
設備関係支出	201,295,490	150,343,932	112,742,669	162,930,370	151,053,643
資産運用支出	7,345,588	6,335,638	205,241,504	407,307,397	6,109,889
その他の支出	369,656,304	494,049,932	581,238,343	592,466,177	607,373,636
資金支出調整勘定	-462,218,003	-497,930,256	-579,317,092	-666,872,435	-524,539,529
翌年度繰越支払資金	2,272,592,413	2,674,867,839	2,619,009,514	2,907,757,392	3,033,010,008
支出の部合計	6,679,229,351	7,050,102,705	8,148,629,188	8,107,859,564	7,614,656,251

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

科目	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入	4,544,976,594	4,702,961,514	4,683,467,887	4,799,124,400	4,629,375,924
教育活動資金支出	4,002,981,736	3,979,170,281	4,037,431,563	4,293,465,229	4,029,317,041
差引	541,994,858	723,791,233	646,036,324	505,659,171	600,058,883
調整勘定	-87,386,340	48,628,719	-73,300,103	-22,323,438	-56,791,406
教育活動資金収支差額	454,608,518	772,419,952	572,736,221	483,335,733	543,267,477
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入	12,530,000	1,660,000	468,094,780	544,726,410	61,667,000
施設整備等活動資金支出	326,814,930	270,075,003	1,339,737,467	822,482,651	327,703,740
差引	-314,284,930	-268,415,003	-871,642,687	-277,756,241	-266,036,740
調整勘定	6,834,503	24,094,686	-232,997,580	211,189,239	-10,645,709
施設整備等活動資金収支差額	-307,450,427	-244,320,317	-1,104,640,267	-66,567,002	-276,682,449
小計	147,158,091	528,099,635	-531,904,046	416,768,731	266,585,028
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入	91,351,663	6,004,232	626,578,504	36,369,316	1,600,967
その他の活動資金支出	177,910,153	131,828,441	150,532,783	164,390,169	142,933,379
差引	-86,558,490	-125,824,209	476,045,721	-128,020,853	-141,332,412
調整勘定	0	0	0	0	0
その他の活動資金収支差額	-86,558,490	-125,824,209	476,045,721	-128,020,853	-141,332,412
支払資金の増減額	60,599,601	402,275,426	-55,858,325	288,747,878	125,252,616
前年度繰越支払資金	2,211,992,812	2,272,592,413	2,674,867,839	2,619,009,514	2,907,757,392
翌年度支払資金	2,272,592,413	2,674,867,839	2,619,009,514	2,907,757,392	3,033,010,008

③事業活動収支計算書関係

事業活動収入（以前の帰属収入）では、前年対比224百万円の減少で4,725百万円、事業活動支出は前年対比416百万円減少となり4,654百万円、基本金組入前当年度収支差額（以前の帰属収支差額）は120百万円の支出超過が70百万円の収入超過となった。

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

科 目	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
事業活動収入の部					
学生生徒納付金	3,551,969,820	3,635,715,280	3,638,694,620	3,664,094,460	3,367,041,760
手数料	104,958,131	86,888,423	81,208,219	73,848,165	65,644,478
寄付金	32,834,000	75,908,354	19,983,000	23,364,929	25,944,615
経常費等補助金	652,225,300	788,972,020	815,197,426	800,511,508	868,369,419
付随事業収入	29,815,158	38,983,985	30,160,893	66,547,193	108,465,798
雑収入	213,401,433	93,602,907	98,223,729	207,148,236	221,259,564
教育活動収入計	4,585,203,842	4,720,070,969	4,683,467,887	4,835,514,491	4,656,725,634
事業活動支出の部					
人件費	2,512,506,990	2,375,158,919	2,486,408,072	2,557,055,276	2,419,182,044
教育研究経費	1,633,764,139	1,819,482,692	1,710,223,726	1,958,929,854	1,806,680,168
管理経費	451,994,764	397,328,733	474,721,685	386,124,828	421,899,224
徴収不能額等	0	1,197,000	0	0	0
教育活動支出計	4,598,265,893	4,593,167,344	4,671,353,483	4,902,109,958	4,647,761,436
教育活動収支差額	-13,062,051	126,903,625	12,114,404	-66,595,467	8,964,198
事業活動収入の部					
受取利息・配当金	1,351,663	1,255,682	1,151,374	1,041,046	1,600,967
その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
教育活動外収入計	1,351,663	1,255,682	1,151,374	1,041,046	1,600,967
事業活動支出の部					
借入金等利息	4,456,383	3,534,268	4,861,889	3,962,124	3,028,946
その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
教育活動外支出計	4,456,383	3,534,268	4,861,889	3,962,124	3,028,946
教育活動外収支差額	-3,104,720	-2,278,586	-3,710,515	-2,921,078	-1,427,979
経常収支差額	-16,166,771	124,625,039	8,403,889	-69,516,545	7,536,219
事業活動収入の部					
資産売却差額	0	0	780	220,000	0
その他の特別収入	22,902,468	4,673,402	272,452,153	113,638,158	67,338,388
特別収入計	22,902,468	4,673,402	272,452,933	113,858,158	67,338,388
事業活動支出の部					
資産処分差額	6,097,300	2,759,275	251,467,871	164,938,108	3,961,181
その他の特別支出	0	0	0	0	0
特別支出計	6,097,300	2,759,275	251,467,871	164,938,108	3,961,181
特別収支差額	16,805,168	1,914,127	20,985,062	-51,079,950	63,377,207
基本金組入前当年度収支差額	638,397	126,539,166	29,388,951	-120,596,495	70,913,426
基本組入額合計	-70,162,797	-45,867,727	-469,315,029	-11,537,233	-251,136,710
当年度収支差額	-69,524,400	80,671,439	-439,926,078	-132,133,728	-180,223,284
前年度繰越収支差額	-9,852,251,951	-9,888,193,284	-9,678,129,342	-10,118,055,420	-10,131,058,282
基本金取崩額	33,583,067	129,392,503	0	119,130,866	0
翌年度繰越収支差額	-9,888,193,284	-9,678,129,342	-10,118,055,420	-10,131,058,282	-10,311,281,566
(参考)					
事業活動収入計	4,609,457,973	4,726,000,053	4,957,072,194	4,950,413,695	4,725,664,989
事業活動支出計	4,608,819,576	4,599,460,887	4,927,683,243	5,071,010,190	4,654,751,563

イ) 財務比率の経年比較

		令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
人件費比率	人件費/経常収入	55%	50%	53%	53%	52%
人件費依存率	人件費/学生生徒等納付金	71%	65%	68%	70%	72%
教育研究経費比率	教育研究経費/経常収入	36%	39%	37%	41%	39%
管理経費比率	管理経費/経常収入	10%	8%	10%	8%	9%
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額 /事業活動収入	0%	3%	1%	-2%	2%
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金/経常収入	77%	77%	78%	76%	72%
経常収支差額比率	経常収支差額/経常収入	0%	3%	0%	-1%	0%

(2) その他

①有価証券の状況

種類	当年度(令和6年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時価	差額
債券	201,497,000	198,790,000	△ 2,707,000
株式	508,800	2,138,160	1,629,360
投資信託	200,000,000	211,907,712	11,907,712
貸付信託	0	0	0
その他	0	0	0
合計	402,005,800	412,835,872	10,830,072
時価のない有価証券	1,000,000		
有価証券合計	403,005,800		

②借入金の状況

借入先	期末残高	利率	返済期限
三井住友銀行	157,200,000	0.37%	令和9年4月
埼玉りそな銀行	341,231,000	0.35~0.88%	令和9年4月~ 令和11年3月

③学校債の状況

該当なし

④寄付金の状況

学生生徒・保護者、後援会、PTA、浄土宗	33,044,615
教育研究振興協力寄付金(企業)	8,900,000
合計	41,944,615

⑤補助金の状況

国庫補助金	教育関係	387,900,799
	施設整備関係	16,114,000
	合計	404,014,799
地方公共団体補助金	教育関係	480,468,620
	施設整備関係	29,553,000
	合計	510,021,620

⑥収益事業の状況

該当なし

⑦関連当事者等との取引の状況

ア) 関連当事者

役員・法人等の名称	資本金又は出資金	事業内容または職業	関係内容	取引の内容
松川 聖業	-	-	-	銀行等借入に対する根保証
緒方 延泰	-	弁護士	顧問弁護士	弁護士報酬

⑧学校法人間財務取引

該当なし

(3) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方針

学校法人における大きな収入源である学生生徒納付金においては、令和5年度では入学定員を下回る入学者になったことにより、収入の減少となった。この状況が継続しないよう学生募集を強化したことより、令和6年度入試においては入学定員を上回る入学者を迎えることができた。学生の確保は学校法人において安定した収入を得るための最重要課題であるため、収入と支出のバランスを考慮しつつ、人口減少が厳しさを迎える中、学生・生徒の教育環境の充実を図り、多くの学生・生徒に選ばれる学校法人を目指して行きたい。また、自動運転技術をはじめ大学の持つ研究成果をアピールし、受託研究・寄付金の獲得を多く得ることができているため、今後も活動を発信し続けたい。

今後の課題としては、未だ施設設備の更新が進んでいないところもあり、将来を見据えた教育研究機関としての大学の施設設備を再考し、そのための予算の計画を立てたい。今まで以上の業務全般について効率化を図り経費削減を行い、安定したキャッシュフローを獲得したい。